

◆吉川市のまちづくりについて

(問)美南新駅周辺の開発は。

(答)第 5 次総合振興計画に基づき、吉川美南駅を中心に、各種都市機能を備えた複合新拠点として市街地の形成をはかる。

(問)吉川美南地区の将来像は。

(答)良好な住環境を図るべきゾーンに位置付け、吉川美南駅を中心に一体的な土地利用を誘導していく。

(問)吉川の東部・北部地域の活性化と地域インフラ整備は。

(答)当該地域は、水辺空間と緑豊かな地域となっている反面、地域インフラとしては道路が狭く未舗装道路も多い。他地域とのバランスを考慮しながら、幹線道路や生活道路、水路などに重点を置いた整備を計画的に進めていく。

(問)産業まちづくり地域に行政施策が必要と思うが。

(答)三輪野江と須賀・榎戸地区については、過去に土地区画整理事業が検討されたが、合意形成に至らず開発が白紙となった経緯がある。今後、土地利用の変更を伴う開発は、行政がビジョンを示し地域の合意形成や諸条件の整理が欠かせない。こうした点を踏まえ産業まちづくり地域については地域住民の意向や社会経済情勢を勘案し慎重に検討していく。

(問)農業集落排水路の今後のあり方は。

(答)農村集落を対象とした下水道事業だが、平成 13 年度から合併処理浄化槽が義務付けられたので、今後新たな整備は行わない方針。

◆行政評価の取り組みについて

(問)行政評価を活用し効果が薄い事業は廃止し、必要な事業には予算を配分すべきでは。

(答)行財政運営を推進するためのツールとして幅広く活用している。平成 24 年度においても、予算事業と事務事業評価事業との連携強化をするなど、改善を図っていく。

(問)行政評価の主な効果や成果、廃止した事業数や新たに開始した事業数について。

(答)廃止した事業は13事業。あらたに開始した事業は15事業。人件費を含むトータルコストの縮減と成果向上による単位当たりコストの改善に効果があった。

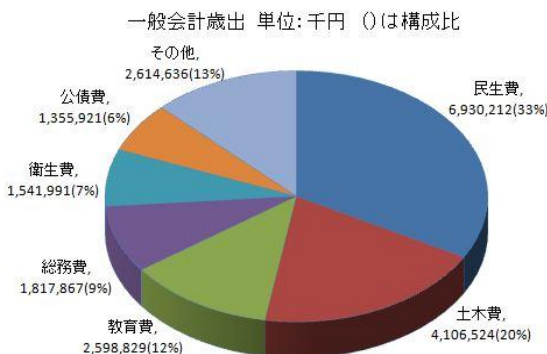
平成 23 年度吉川市決算の概要

歳入		歳出	
一般会計	222 億 2,284 万円	一般会計	209 億 6,597 万円
特別会計	119 億 158 万円	特別会計	110 億 1,898 万円
歳入総合計	341 億 2,443 万円	歳出総合計	319 億 8,495 万円



実質収支(歳入-歳出-繰越分)

一般会計 **11億 284 万円の黒字**
 特別会計 **8 億 8,826 万円の黒字**



土木費のうち 1/3 は美南駅建設負担金
 道路関係決算額は全体の1.3%

庁舎建設等に関する検討委員会報告書

(委員長:牛山久仁彦 明治大学教授)

- 新庁舎の建設地 おあしす隣接地(平成8年に購入した東側隣接地)
- 事業方式 本庁舎、第二庁舎、別館及び保健センターの機能を1つに集約し新築する。
- 庁舎の規模 延べ床面積 8,200 平方メートル程度。
- 駐車場の規模 来庁者等用 169 台+公用車用 56 台
- 財政負担の抑制 庁舎建設基金の計画的積立、初期投資額の抑制
- 跡地(本庁舎・第二庁舎・別館)の利活用 売り払い、土地の貸付、公共施設としての再活用など